

# はな華 80



## 朝礼 スピーチ

最近読んだ本の中で、これからこんなことが言える人になりたいと思ったかっこいい言葉があります。それは「教えてくれてありがとう」です。

これはどんなシチュエーションの時に言うのかですが、ミスを報告された時です。もし報告された時「どうしてこれができなかったのか」と聞くと、報告者に考えさせているようにも聞こえますが、責められていると感じる割合が多いのではないのでしょうか。

そのような質問の仕方が続いていると、誰もミスを報告しなくなり相談までしなくなるとその本では述べられていました。

今もできていないとは思っていますが、他者から報告を受けた時は、「教えてくれてありがとう」の意味を込めた感謝の言葉をこれからもしっかりと伝えていきたいと思えます。

仕事を続けていると、ミスを報告される時がいつかくるのかなと思えます。その時は「教えて

くれてありがとう」と、「この言葉がサラッとと言えるかっこいい人になりたいと思います。」

(介護員 入江知至)



私が子育てをする中で、ふと気づいたことがあります。子どもと一緒に出かけるとき、「子どものために」と色々な場所へ行きましたが、寝る前等にその日の写真を見返すと、満面の笑みの自分が映っていたり、その写真を見返したりする時間がとてもリラックスできる時間だと気づきました。いつの間にか、子どものためのお出かけが、一番私自身を楽しませてくれる時間になっていました。

これは、私の仕事にも通じます。「ご利用者や職員さんに「ありがとう」「助かったよ」と頼られる瞬間が、何よりも嬉しく感じています。生活のためというのも大切ですが、それ以上に、誰かの役に立てることが私の原動力になっているなど感じています。

「情けは人の為ならず」誰かのためにしたことが、結局は自分自身の喜びや生きがいとなって返ってくる。私は介護の仕事を通して、それを日々実感しています。

これからも、誰かの笑顔のために、そして自分身のために、毎日を大切に過ごしていきたいと思えます。

(介護員 中本麻世)



以前清華苑ブログに掲載していただいたこともあるのですが、プルタブを寄付しに来苑された方を見かけてから法人で集めていることを知り、子供と一緒に集めています。

うちの小学6年の長男が「プルタブで車椅子になるのか？」というテーマで自由研究をしました。それは別に、近所のお子さんが今でも「プルタブ たまったで！」と言って持ってきてくれます。このような小さな行動は、大人が思うより子どもたちの心に残っているのだなと感じました。せっかくの取り組みなので、私もできる範囲で続けていこうと思います。

(事務員 山本水穂)

### 編集後記



今号では、お屠蘇祝いなど、笑顔あふれる素敵なひとときをお届けするともに、職員一人ひとりの想いがたくさん詰まった内容となっております。

本年も皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、当施設への変わりぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(生活相談員 原田七海)



# ご縁を大切に、共に歩む一年へ

施設長 岩西太一

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。旧年中は、当施設の運営に対し、格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。ご利用者の皆さまが穏やかに日々を過ごされていること、そしてその暮らしを温かく見守り、支えてくださるご家族・地域の皆さまの存在に、職員一同、深く感謝申し上げます。

さて、昨年12月に元プロ野球選手の八木裕様による人材育成セミナーを聴講する機会がありました。組織づくりや人材育成についてのお話の中で、特に印象に残ったのが、日本ハムファイターズに根付く「楽しいが一番」という考え方です。

一見すると「楽しさ」は厳しさと相反するようにも思えますが、八木様は、真剣に勝負に向き合っているからこそ、チームが前向きに、のびのびと力を発揮できると語られていました。ミス責めるのではなく、「なぜ起きたのか」「次にどう生かすのか」を考えさせることで、選手一人ひとりが自ら成長していく。その背景には、安心して挑戦できる環境があるからこそ生まれる「楽しさ」があるのだと感じました。

このお話は、私たちの法人理念にも深く通じるものがあります。私たちは、ご利用者の皆さまとの一つひとつのご縁を大切に、その方にとって本当に価値のあるサービスを提供することを目指しています。そのサービスは、特別なことではなく、日々の関わりの中で自然に生まれる、心のあたかさを感じられるものでありたいと考えています。

ご利用者の皆さまが安心して過ごし、自分らしく笑顔で日々を送れること。その積み重ねが暮らしの中の「楽しさ」となり、心の安定や生きがいにつながっていくのだと思います。また、職員が安心して意見を交わし、互いに学び合える環境があつてこそ、ご利用者一人ひとりに寄り添った質の高い支援が可能になります。「楽しさ＝安心」という土台の上に、信頼と専門性を重ねながら、その人らしい暮らしを支えてまいります。

本年も、ご家族や地域の皆さまに支えられながら、職員一同、心を込めてご利用者一人ひとりに向き合い、「楽しさの中に安心がある施設」を目指して歩み続けてまいります。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。





エピソードに掲載されているご利用者と写真に写られているご利用者は別の方で関係はありません。



エピソードに掲載されているご利用者と写真に写られているご利用者は別の方で関係はありません。

## 思い出は宝物

介護員 松田祐樹

A様との出会いは、私が老人保健施設 清華苑 養力センターに勤務していた頃に遡ります。

A様はとても表情が豊かで、他のご利用者や職員とよく会話をされ、いつも明るやかに笑っておられる方でした。廊下ですれ違う際には、「歩かれようになつたら困るんやから」と口にされながら、リハビリにも積極的に取り組まれ、独歩で元気に歩かれる姿が強く印象に残っています。

その後、私が特別養護老人ホーム 清華苑へ異動となり、A様も後に当苑へ入所されました。

以前は独歩で歩かれていたA様でしたが、車椅子を使用されるようになり、「あんなに元気に歩いていったのに」とぼつりとこぼされることがありました。その表情は、どこか寂しそうにも見えませんでした。さらに、怪我によりベッド上での生活が続くようになると、次第に表情や口数も少なくなっ ていきました。

そんなある日、A様に「僕のこと、覚えてますか？」とお尋ねすると、

「ちゃんと覚えとるよ。忘れるわけないやんか」と、嬉しそうに、そして力強く答えてくださいました。その言葉に、胸が温かくなったことを今でも覚えています。

春には、A様を観桜会へお連れすることもできました。桜がお好きだったA様はとても喜ばれ、その穏やかな表情から、きつと心に残るひとときになったのではないかと感じています。

その後、A様との関わりを「C-1グランプリ」という事例発表会で取り上げさせていただきました。発表の準備を進める中で、何度もA様との日々を思い返しました。楽しそうに笑っておられた表情、不安そうにされていた表情、そして桜を眺められたあの日のこと――

A様と共に過ごし、刻んできた数々の思い出は、今も私の大切な宝物です。

# STAFF VOICE

## スタッフボイス

### 特別養護老人ホーム 清華苑

介護、看護、相談、調理、事務、それぞれの部署で働くスタッフの生の声をご紹介します。



社会福祉法人 三幸福社会  
**清華苑**  
miyukifukushikai seikaen

## 伝え方が繋ぐ安心

介護員 小林紗弥

過去にケース担当をさせていただいた、Y様とのエピソードをご紹介します。

Y様が入所された当初は、故郷である鹿児島に帰りたいという思いが強く、環境の変化に戸惑われている様子でした。また難聴もありましたが、ジェスチャーを用いたコミュニケーションも十分に伝わらず、どのように関わればY様が安心して過ごしていただけるのか、日々悩んでいました。

そのような中で、「伝え方を変えれば、気持ち は伝わるのではないか」と考えました。ジェスチャーで伝わらないのであれば、文字で言葉を伝えてみようと思い、筆談ボードを使った関わりを始めました。思いを文字で伝えることで、Y様の表情は次第に和らいでいきました。

また、耳元でゆっくり話すと言が聞こえやすいことが分かり、その時々々の不安や状況に応じて、声掛けと筆談を使い分けながら対応するようになりました。

Y様が少しずつ安心された様子を見たとき、コミュニケーションの大切さを改めて実感しました。相手に合わせた「伝え方」を工夫することで、安心や信頼につながるのだと学びました。

うまくいかないと感じたときこそ、「この方にとって一番良い方法は何だろう」と考え、試し、寄り添い続ける姿勢が大切であることを、Y様から教えていただいたように思います。

一人ひとりの思いや背景に目を向け、その方らしさを大切にしたり関わりを続けていくこと。それが支援者としての責任であり、介護の仕事のやりがいであると感じています。

# いつまでも私らしく

介護支援専門員 前川真弓

今年も無事に秋祭りを開催することができ、心より安堵と感謝の気持ちでいっぱいです。準備段階から当日まで、職員一人ひとりが力を合わせ、「ご利用者の皆さまに笑顔と季節の彩りを届けることができました。」

日々の業務の合間を縫って準備を進める中で、「皆さんに喜んでもらいたい」という思いが職員の間にも自然と広がり、チームの結束力も一層高まったように感じます。

前日は雨が降りどうなる事かと思いましたが、祭り当日は秋晴れの穏やかな空の下、施設内に設けた櫓や屋台には、ご利用者の方々の笑顔があふれました。

「たい焼きや綿菓子を手にも「懐かしい味やなあ」と話される姿は、まるで子どもに戻ったかのようで、目を細めて味わう表情に、過ぎ去った季節への思いがにじんでいました。」

その姿を見て、私たち職員も胸が熱くなり、「この瞬間のために準備してきたんだ」と、心から報われる思いでした。

た。中には、櫓や提灯を見上げて目を輝かせているご利用者もおられ、祭りの雰囲気存分に味わっていただけたように感じました。

また、「法人サークル「ちゃんぶる。」による演奏や盆踊りも祭りに華を添え、手拍子をしながらリズムに乗るご利用者やご家族の姿が印象的でした。音楽に合わせて自然と笑顔がこぼれ、会場全体が一体となって盛り上がる様子に、職員も思わず見入ってしまうほどでした。

行事を開催すると、改めて「つながり」の大切さ、人と人との絆の温かさを感じます。今回の秋祭りを通じて、行事の持つ力、そして人と人とのふれあいがもたらす喜びを再認識しました。笑顔や会話、触れ合いの中にこそ、安心と生きがいが生まれるのだと実感しています。

今後も、ご利用者の皆さまが安心して笑顔で過ごせるよう、心を込めたケアと行事づくりに努めてまいります。皆さまの笑顔が、私たち職員の何よりの励みです。



# 華だよりブログ

特別養護老人ホーム 清華苑



2025.11.28 さあみんなで歌いましょう

合唱ボランティア「結」の皆様によるコンサートを開催しました！美しい歌声を聴こうと、大勢のご利用者が集まりました！大広間いっぱいに美しい歌声とピアノ演奏が響きわたりました！一緒に歌ったり、手拍子したり、動いて歌いながら合唱を楽しみました！



2025.10.29 祝・百寿！

H様が100歳(百寿)のお誕生日を迎えられました。いつも穏やかな笑顔で、「ありがとう」と優しい言葉をかけてくださるH様。職員一同、そのお人柄に日々あたたかい気持ちをいただいています。これからもお変わりなく、穏やかに温かな日々を過ごしていただけますように。



2025.10.15 文明堂へ外出 Day

文明堂へおやつを食べにお出かけ♪店内で、好きなスイーツとお飲み物を選んでいただきました！「おいしいねえ！」「こんなところ来れるなんて思わなかった！！」甘いお菓子を頬張ると、自然と笑みがこぼれます。次のお出かけへの夢も広がります。



2025.12.21 心で生ける華の道

皆さんお待ちかねの華道教室。始まる前から皆さんのワクワクが伝わってきます。華道の先生にアドバイスを頂きながら、丁寧に生花を作ります。一人ひとりで違う表情を浮かべる個性的な生け花。今日もまたお一人、生け花に魅せられ「次もまたお願いね」と声をかけて下さいました。



2025.12.17 小さな百貨店開店

移動百貨店の日！皆さん時間を忘れてお買い物に夢中♪一緒にお洋服を選ばれているお姿を見ると、なんだかホッとした気分になります。お買い物は、必要な物を手に入れるだけでなく、心のストレスを和らげる大切な時間です。「自分で選んだ」という満足感を得る楽しみとなっています。



2025.12.13 サンタが持つ力

ご利用者の皆さんにクリスマス気分を味わってもらいたいと、職員がサンタの風船を持ってまわりました。サンタを目にしたご利用者の皆さん。あら不思議。皆さん揃って自然に笑顔になっています。コレぞサンタが持つ力！！老若男女問わず皆さんサンタは人気者！そろそろ私もお願い事を



2025.12.23 伝える側としてここに立つ

明石商業高校 福祉科の生徒さんと福祉の現場で働く若手職員との交流会。参加した1名の職員は、明石商業高校の卒業生。かつて「伝えてもらう側」だった先輩が、今は「伝える側」としてここに立っています。人が人に憧れて続いていく。今日の出会いが、誰かの「進路を決める一歩」になりますように。



2025.12.20 思い出の場所

私は、ご利用者の皆さんとコミュニケーションをとるとき、いつも共通の話題がないかを探しています。例えば、生まれた地、思い出の場所、趣味、得意なことなど。共通の話題が見つかったら、自然と会話に花が咲き、心の距離もグッと近づいていく気がします。T様と私の共通点は、生まれ育った地。何気ない会話の中で、私が生まれ育った地域がT様のお住まいに大変近かった事が分かりました。「○○の角を曲がったら○○の酒屋さんがあって・・・」まるでお互いにその地を歩いて回っているかのよう、頭の中にその場所の光景が広がっていきます。一緒にその場所を実際に歩いて散歩をすることはできませんが、グーグルマップを使って、画面越しに virtual walk を楽しんでいます。